

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 <第59号>

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議専務理事(事務局長) 芝 忠
 〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センター5F
 TEL045-633-5142 FAX045-633-5194
 Email: zan25564@nifty.com <http://www.kanagawa-iguren.com>

感動した千葉県の報告

芝 忠

7月27日開催した第2回中小企業振興条例セミナーでの千葉県石井副主幹の報告は大変感動的な内容でした。千葉県中小企業振興条例を条文毎に説明されたものですが、条文の一つ一つの内容が活発な議論の結果の到達点だったことが良くわかりました。

例えば説明の前文にある「中小企業の成長発展を促し、地域を一層活性化するという好循環を生み出す」という条例の目的に関して、本文の用語には法令用語として不適切だということで「相乗的に効果を発揮する」という表現になったことや、「厳しい変化を乗り越えるための果敢な挑戦に取り組む」も「経営の向上への意欲的な取組を促進する」となったこと。また産学官交流における大学の役割も「大学の自治」という文部科学省側の用語からの制約でやや弱い表現にとどまったこと、大企業者の役割については、大型店と商店街との協力関係強化を念頭においたこと、市町村への協力については市町村側の役割・義務を明示できずに協力することとどまったこと等です。

条例名称も「元気条例」という案があったようですが、やはり法令用語に馴染まないということになったそうです。条例が理念上の表現を規定したわけですが、具体的な施策については条例と同時に「元気戦略」という具体的な振興プランを定めました。条例化づくりに協力した千葉県中小企業家同友会からは「元気戦略」を実際に活用出来る企業像を目標に経営改善していくという取組が始まったということです。「元気戦略」は3年毎に見直すこととしています。

特に県当局にとっては第18条「県は、施策の立案及び実施に当たっては、当該施策が中小企業の経営に及ぼす影響について配慮する」という条文が重要です。いわゆる商工行政以外の道路・建築・環境・農政・福祉など他部局の行う施策についても「中小企業の経営に及ぼす影響」を考えねばならず、縦割りの行政の中で県庁内の調整が大変だったということです。我々は本年3月に条例化された千葉県の事例を真摯に受け止め研究する必要性を感じました。

一方セミナーの冒頭で大林弘道先生から「中小企業振興条例を必要としている中小企業の最近の状況」についての問題提起が行われ、2000年代になってから全国で条例化が進んでいるが、中小企業を取り巻く新たな情勢としてとらえ、地域経済の立て直しの新しい段階として考えるべきだという指摘がなされました。

参加者は50人でしたが、活発な議論が展開され、また引き続きの懇親交流会にも10数名が参加、大林先生を囲んでの討論会となりました。

異グ連では県内市町村及び商工会議所・商工会まわりを行っており、既に3分の1を実施いたしました。残りを次回セミナー(10月1日)までに回りたいとかがえています。今回のセミナー開催に際して、各中小企業団体等の政策要望を提案していただくよう、9月末を目指した要望調査を実施しております。これもご活用いただくようお願いいたします。異業種交流グループにもお願いいたします。

次回のご案内 第3回中小企業振興条例づくりセミナー(勉強会)

日時: H19年10月01日(金) 17:30~20:00 場所: 神奈川中小企業センター13階 第二会議室

横浜国大三井逸友教授「中小企業を取り巻く醸成と中小企業振興条例」(仮題)

東京都墨田区産業経済課小坂橋一之主査「墨田区中小企業振興条例の運用と効果」(仮題)

申込: 9/26までに異グ連 芝、八幡、島津龍、島津俊へ 045-633-5194 参加費 1000円

産学官交流サロンのコーナー

おなじみ尾上町サロン

日時: 毎月第一・三金曜日(9月07日、9月21日) 会場: 神奈川中小企業センター5F 産業交流プラザ
 連絡問合せ: 神奈川異グ連事務局 芝、八幡、島津龍男、児玉、鈴木 045-633-5142

第10回 西湘サロンの開催案内

日時: H19年09月10日(月) 18:00~20:00

会場: あいおい損保小田原支社 3F会議室

小田原市城山1-6-22 瀬戸ビル

「山北丹沢水系の天然水を利用した清涼飲料について」

神奈川柑橘果工(株) 総務部長 井上卓司氏

(首都圏消費地を背景に、美味しくて豊富な天然水を利用した商品を提供している企業です) 参加費: 1000円

申込: 異グ連事務局 芝、島津、吉池 045-633-5142

第22回三浦半島経済人サロン

日時: 9月13日(木) 18:00~20:30 参加費: 1000円

会場: 神奈川新聞社横須賀支社 5F会議室

横須賀市小川町21-9(京浜横須賀中央駅10分)

話題: 「横須賀のまちづくりを考える」

品川文花堂代表取締役 品川哲朗氏、

中小企業診断士 大場保男氏

申込: 神奈川異グ連事務局 八幡敬和 045-633-5142

防衛大学校名誉教授 鶴野省三 046-836-6785

スターリングエンジン研究会

八幡常務理事

昨年の三浦半島経済人サロンで、防衛大学校名誉教授・鶴野省三氏から2回に分けて、スターリングエンジンの実用化を提案されて以来、予想外の反響があった。同氏は時期到来と判断され、関心を持った人たちを中心にライフワークとしていたスターリングエンジン研究会を発足させた。当研究会は幾度か会合を重ね、去る7月17日には、東京で第一回スターリングエンジン講演会を開催し、全国から80名が集まった。「バイオマスの活用にスターリングエンジンが果たす役割」を基調に、同エンジンの実用化を支える諸問題について各分野からの事例報告が出され、スターリングエンジン普及協会の必要性が確認され、早速NPO法人の設立の準備に入った。10月の神奈川県産業技術センターでの「ものづくり技術交流会」で紹介を予定している。

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況**アルメニア研修生のその後**

魚崎誠也BC

昨年暮、アルメニアから来た研修生の帰国後のレポートがJICA(独立行政法人 国際協力機構)経由で届いた。それによると6名の研修生はそれぞれ帰国後、日本で得た研修結果を各自の事業に応用している様子が、断片的ではあるがわかった。中でも2名の女性のうちマリアンナさんのレポートが、実態をうまく表現しているように思えた。彼女は帰国後トレーナーとして、母国の方へのセミナーなどを開いて、日本で習得した知識を生かそうとした。ところがセミナーを開いても質問もあまり出ないし、意見も出ないので拍子抜けのようである(筆者の推測)。彼女の感想では、これも長い間のソ連での計画経済の影響であろうかと感想を述べていた。やはり、日本で得た市場経済の話は、母国の人にはピンとこないであろう。マリアンナさんによれば、このようなセミナーなり、ミーティング自身の意義から教え込まないと、と言っている。実はこのレポート、JICAから派遣された別のコンサルタントの方を経由して届いた。この方は、6名の研修生のうち、年長者3名は、日本での研修結果を上手に仕事に生かして、マリアンナさんを含めた若手3名は今一つであると、評価していた。しかし、先に述べたように、マリアンナさんを含めた3名も日本の市場経済なり、勤勉な仕事振りを十分習得して帰ったが、母国で生かせるのは、やはり時間が掛るとというのが真相ではないかと思った。

シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループとして、業種・業態を問わない幅広い交流を目的に、原則第二火曜日に定例会を開催しております。(場所はかながわ県民センター)

8月定例会は8月7日(火)にオーディオブックという新しい分野で起業し事業を拡大されている、ことのは出版有限会社 代表取締役 野村香久氏に「起業は簡単。成功するのは千人に一人? ー成長するオーディオブック市場を走る企業の奮闘記ー」というテーマでお話いただきました。ビジネスプラン、キャッシュフローの重要性、パブリシティやネットワークの活用など実践に基づいたお話は大変参考になりました。

9月定例会は、9月11日(火)に会員の菊地敏雄氏(菊地マネジメントラボ)に、執筆された本を題材にお話いただきます。(図解入門ビジネス「最新 **医療サービスの基本と仕組み**がよ〜くわかる本」(榎秀和システム 2007年1月 発刊) シフト21ではゲストの皆様の参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。(arimura-c@nifty.com)

まんてんプロジェクト

千田BC

- 7/9付け行政施策新聞の連載記事「創造的中小企業への道」にまんてん会員企業の野島製作所が紹介された。
- 7/27、東京都主催の「航空機関連産業参入セミナー」が渋谷区青山のウイメンズプラザにて開催され、まんてんプロジェクトからは会員の成功事例を発表した。
久保田東大名誉教授の全体的なプレゼンテーションの後、IHIからは同社の調達の方針と中小企業の参入にたいする期待の表明があり、JALエンジンテクノロジーから、航空機の大口利用者として、部品調達と新規部品開発の重要性、特に汎用部品開発にたいする大きな期待が述べられた。最後に東京都は、本年度から支援事業を開始すること、今回のセミナーがその最初のイベントであること、今年度の予定として、施設見学会、JISQ9100取得セミナーなどを計画していることが発表した。
東京都は会場の規模の都合で先着200名を限度に参加者を募集したが、申し込みが殺到し、最終的には約2倍の申し込みとなった為、急遽同日に第一部、第二部と2回にわけセミナーを実施した。参加者の中には、東京都以外からの参加も多く見られたとのことである。
- (財)内藤泰春科学技術振興財団の平成20年度の助成金募集が開始された。調査・研究開発部門で200万円、国際交流部門で50万円をそれぞれ限度として交付する。応募締め切りはいずれも本年11月10日。応募用紙は財団HPからダウンロードできる。<http://www.naito-zaidan.or.jp/>
問い合わせはJASPA千田まで。(TEL:045-264-8550 E-mail: senda@jaspa.co.jp)
まんてんプロジェクト関連での詳細問合せは、<http://www.manten-project.org/>より

第77回日韓ビジネス協議会の開催案内

高橋導徳BC

お楽しみ恒例の工場見学(暑気払い)です。・・・キリンビール横浜ビアビレッジ(生麦駅より徒歩10分)

- 日時:** H19年08月22日(水) 15:00~17:00 (17:15から懇親会)
集合: 京浜急行生麦駅改札前 15:00、 15:30~当社の環境問題の対策(VTR)~工場見学~
 工場見学終了後、ビアビレッジ内のレストランでビールの飲みなおしをします。(会費1,000円)
連絡申込先: TEL/FAX045-311-0094 高橋迄 MAIL: mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

第76回日韓ビジネス協議会(報告)

高橋導徳BC

- 韓国企業紹介・・・(株)リッドロックジャパン/エンターテイメント 取締役 ソンジェホ氏
 - ・ 2006年11月設立、新感覚のダイレクトマーケティング(ツール「Li d R o c k」)で2007年度に日本初上陸。テイクアウトの飲み物の「蓋(ふた)」に宣伝用のCDを挿入して、効率の高いマーケティングや広告を行う。アメリカではすでに支持され、活動している。
- "Design Product Group"創設について・・・(株)スリーテック代表取締役 久野啓一氏
 - ・ 横浜市経済観光局、ものづくり支援課の指導、協力のもと、EMS-R2グループの枠組みにProduct Designを取り入れた。意欲ある企業の参加を期待している。
 - (1) EMS-R2グループの試作開発の対応力強化
 - (2) 若いデザイナーの育成とデザイン発表
 - (3) 新製品考案中の中小企業の新技術紹介
 - (4) 教育機関とモノづくり企業とのコラボレーション
- **第3回神奈川県=韓国・京畿道との「異業種国際交流会」は11月1日(木)**に開催される。中小企業30社、京畿道庁関係者など総勢40名が来日される。
- 新製品 SCM (イオナイザー他)、三木プーリー(シャフトドライブ)、ABBA(直動ガイド)などの紹介
 - SCM(株)・・・静電気を徐電する物で0.3秒で可能
 - 三木プーリー(株)・・・シリンダーの操作の電動化
 - ABBA Linear Tech Co.,LTD・・・リニアモーションガイド

関連イベントなどのおしらせ

<p align="center">第22回神奈川県品質管理セミナー</p> <p>顧客のニーズを満たす製品を、高品質で合理的価格出提供するTQM(総合的品質管理)の実践セミナー。</p> <p>日時:09月04日(火)13:30~17:00</p> <p>場所:神奈川県民ホール小ホール(山下町3-1)</p> <p>内容:特別講演「コマツの品質経営と経営構造改革」 (株)小松製作所代表取締役会長 坂根正弘氏 基調講演1「Q-JAPAN 蘇れ品質立国日本」 東京大学大学院教授 飯塚悦巧氏 基調講演2「一社一家で取り組む品質経営」 (株)西澤電機計器製作社長 西澤泰輔氏 QCサークル事例講演 日産自動車追浜工場 共催:神奈川県、産業技術センター、工業技研連絡会 参加費:無料 申込:神奈川県産技センターHP参照</p>	<p>企業経営者向け戦略セミナー クレームを生かす!! ~お客様のご意見はお金を払ってでも手に入れたい~</p> <p>日時:10月13日(土)13:00~受付</p> <p>場所:海員会館1F会議室 芝離宮方面島嶼会館から一軒過ぎて右へ入る。 東京都港区海岸1-4-9 JR浜松町徒歩3分</p> <p>内容:特別講演「消費者から見た良い対応とは」 国民生活センター元理事吉田良子氏 基調講演1「住宅品質確保法について」 中小企業診断協会 武谷清志氏 基調講演2「消費者保護の消費者契約法について」 中小企業診断協会 瀧澤昌男氏</p> <p>主催:中小企業診断協会・安全品質環境実務研究会 参加費:無料(懇親会は3,000円いただきます) 申込:丸山 智 tel/fax 048-986-4185</p>
<p align="center">かながわコンソーシアム事業 2007 第一回啓発セミナー</p> <p align="center">技術xマーケティング</p> <p align="center">~事例で学ぶ技術マーケティングと販路拡大戦略~</p> <p>日時:08月24日(金)14:00~16:00 参加・聴講:無料</p> <p>場所:神奈川中小企業センター6F 大会議室</p> <p>講師:相楽 守氏(中小企業診断士、ビジネスコーディネーター)</p> <p>内容①技術マーケティングとは ②失敗事例、成功事例に学ぶマーケティング手法 ③マーケティングによる販路拡大戦略</p> <p>問合:中小企業センター交流支援課 045-633-5192 岸間</p>	<p align="center">中小企業技術革新(SBIR)制度説明会</p> <p>公的補助金活用説明会を今年も開設します。</p> <p>日時:第一回H19年10月11日(木) 13:30~ 第二回H19年11月29日(木) 13:30~ 第三回H20年01月31日(木) 16:30</p> <p>場所:神奈川中小企業センター6階 大研修室</p> <p>内容:公的資金活用企業の体験談、SBIR制度の説明、最新情報、応募のポイント、申請書の記入開設</p> <p>参加費:無料 問合せ:(社)日本技術士会神奈川県 tel045-210-0337 fax045-210-0338</p>

投稿 「温暖化」より「石油ピーク」を C&Sグループ 島津 龍男 (中小企業診断士)

「京都議定書」に対してその拘束力と権威はともかくとして、アメリカ・中国・インドの不可解な態度、日本における「国・環境省・主管団体(JCCCA 全国地球温暖化防止活動センター)・学者・識者・関係者など」のアイマイな態度、などこれらを俯瞰してみると、建前の姿勢の奥にあるそれぞれの「本音」を知りたくなってきた。つまり、「環境問題」は、国の立場や科学的根拠をしっかり把握しない上っ面だけの話では、ホントに理解しているとは言えない。筆者は、まだ調べ尽くしたわけではないので、十分把握しているとはいえないし、誤解もあると思う。さらに勉強して「真実」を知りたいと思い、とりあえず現在の認識を整理してみた。

はじめに石油がなければ石油由来の「温暖化」は発生しないことを再確認してからこの問題に取りかかろう。この原点から「リサイクル」「循環型社会」などを含む「温暖化」対応策（環境問題）を総括してみる。

1、「石油」とは

「文明」の形態は、「エネルギー」として「何を、どう使ったか」で決まると言える。人類の「物質文明史」は、古代から「森をいかに収奪したか」の歴史である。文明の盛衰は森林を政治力が戦闘力かで、どう我がモノにするかによって決められてきた。「エネルギー源」の歴史は、「木材・薪炭」の時代が古代から18世紀まで続き、19世紀に「石炭」の時代となった。人類は「化石燃料」を使い始め、それ以来エネルギー不足から解放された。特にコークスの製造技術が進歩することにより、石炭の使用は「製鉄」を筆頭にして本格化された。

20世紀に入ると、重用されていた鯨資源の減耗と相俟って石炭と違う「石油」の特性が時代の進歩につれて次第に認められ、広範な用途が開発されて文明の急速な進歩に貢献した。「石油ピーク」問題について人心を喚起する学者達は「もったいない学会」を設け、セミナーや著作を通じて「石油減耗」にはどう対応すればよいのかと、「脱浪費社会」の速やかな構築を世間に訴えている。正に人類が避けて通れない道であろう。

「石油」の特性を列挙すると次のとおりである。

- 1)「常温で液体」
- 2)「合成化学の材料源」となる
- 3)単なる燃料でなく「内燃機関用」として非常に適している
- 4)農業において「農薬・肥料・農業機械用燃料・農業機材用プラスチック等」基盤の事項を支えている

21世紀になると、世界の石油事情は逼迫してきた。20世紀において、「地球は有限」「資源は有限」という限界を無視した技術者・識者・専門家らの楽観論者の指導する社会の下、石油を「大量消費」したツケが今、回ってきたのである。

2、「資源」は有限

現代物理学においては、「資源は有限」である。我々地球人は「エネルギー源」のほとんどを太陽と石油から得ている。「資源」を「リサイクル」することはできるが、「エネルギー」をリサイクルすることはできない。エネルギーは一過性で消費したときになくなる。リサイクルしていると思うのは錯覚で、そこには必ず「熱力学の第二法則(エントロピー則)」が厳然と働いている。リサイクルしたと思ったのは、新たなエネルギーが投入されているのを見過ごしているに過ぎない。

「石油ピーク(Oil Peak)」は、もう来ている。GDPの幾何学級数的伸びにエネルギー生産はついて行けなくなっている。資源と経済の整合性がとれなくなって来ているからである。「石油減耗(Oil Depletion)」への対処、「石油浪費の社会体質」からの脱皮を真剣に考えなければならない。「熱力学第二法則」を克服した新たな日本流の知恵が、「脱石油戦略」の構築に今必要なのである。「もったいない。Just in Time」の思想を生かそう。「ゴミは資源」ではない。「3R」で最も大切なのは「Reuse(ゴミを出さない)」である。「エネルギー」を考慮した「科学的資源論」に立脚して、「脱浪費社会」に日本人の知恵を結集しよう。

3、「温暖化」対応

「エネルギー」と「環境」は要するに表裏一体である。「石油ピーク論」を考えないと「地球温暖化」対策を考えても意味ない。その前提として「災いは元から断て」の実践である。具体的には、使える「新エネルギー(一次エネルギー)」を選んだり、「車社会のあり方」にメスを入れたりして、基本的な将来を見据えた「エネルギー政策」を考える必要がある。大陸に立地する「ヨーロッパやアメリカ」が考えた対応策では、75%が山岳で四方海に囲まれた「日本」のためにはならない。「京都議定書」に束縛されなくてもよい。日本が「独自」に考えなければならないのである。

編集室 俗に言う毒にも薬にもならない人は、ガラスケースの中のランチメニューに似て、
いくら時間を掛けても、何の味もしない！！ アフオリズム(警句)作品展/優秀賞より
皆様からのご投稿をお願いいたします。(会報編集担当) mail t-onogawa@pro.odn.ne.jp 小野川へお送りください。

神奈川異グ連への連絡問合せは、事務局当番者 tel 045-633-5142 fax 045-633-5194 芝、八幡、島津(龍)、杉本、児玉へ